



発行 大阪乾癬患者友の会(梯の会)
編集 友の会編集委員

特集

◎乾癬学習懇談会in大阪

◎第26回乾癬学習懇談会



・・・ Index ・・・

・会長挨拶	P1	・「あなたに伝えたい乾癬の真実、そして都市伝説」	P5
・事業報告・計画	P2	安部正敏先生	P9
・決算・予算	P3	・QA	P12
・第26回学習会	P4	・ヒュミラについて	P14
		谷守先生	
		・お知らせなど	

会員の皆様新年あけましておめでとうございます。うございませう。

昨年度平成二十三年は東日本大震災や紀伊半島の大水害等自然の脅威に見舞われた一年でした。多くの悲惨な災害に見舞われながら被災した、またこの災害に共感をもつてこの中で特に合言葉として言われているのが「絆」という言葉で人と人とのつながりを大事にすることを多く言われています。

災害とは直接関係ありませんが乾癬という病気に關してもこの「絆」という言葉はとても大事だと感じています。私個人についても阪神淡路大震災を経験しその他多くの災害を経験し、また乾癬という病気に關り患者会の活動に参加してこの「絆」という言葉をかみしめていました。「乾癬」という難病にかかり、さらに関節症状もでていたため最初のうち一人で闘病していたときは三十代で先行きの不安に過ごしてしまいました。十三年ほど前に「大阪乾癬患者友の会(梯の会)」に出会って孤独な闘病生活をおくり不安一杯な状態から、会の行事に参加することで病気にかかわる知識を増やすとともに、普通だったら出会うことのできなかつ

た多くの人々と出会い、歓談し心の支えとすることができるようになってきました。この人と人とのつながりは心の中でとても大きく、明るい生活を送る糧となっています。

今年も例年にも増してさらに交流の充実を目指して会を運営していきたいと考えています。会員の皆様にもこの患者会の「絆」について意識していただき、計画する交流行事等には是非積極的にご参加いただきたいと思います。

昨年度の行事および今年度の行事予定について次項に示させていただきます。平成二十四年度は二十三年度の活動を継続し、さらに会の活動を拡大していくため次の項目を重点目標として会の運営を行いたいと思っております。

①内外での交流の拡大
交流行事の開催、地区交流会の拡大、全国の患者会との活動の拡大を図る。他会との関係等の見直しも必要ですが、回数が増える中で交流を深める、多くのものを得られるようにしたいです。

②近畿地方での会員の発掘
当会は発足の経緯が阪大を中心に活動していますが、阪大および関連病院

以外の医療機関に通院されている皆様に情報提供が十分でないところがあります。既に滋賀、奈良、和歌山、兵庫にて学習会を開催してきておりますが、引き続き近隣の医大の医師に講演等のご協力をいただいで患者会の存在をさらに知っていただく活動を継続していく予定です。少しでも多くの乾癬で困りの方の病状改善にお役に立てればと考えています。今までの行事に参加が困難であった皆様にも情報と交流の場を提供するような機会を作っていきます。

③定例行事の運営
定例総会、会報、幹事会その他恒例の行事を充実した内容で運営します。恒例の学習懇談会に關しては講師を最近の会のように医師に限らず医療関係者に広げ、また毎回二題以上の講演を行って参加者の様々なニーズに慮えていきたいと考えています。

④交流行事の充実
昨年にも増して交流行事の充実を努力したいと思っております。会員の皆様の企画、行事への積極的なご参加をお願いいたします。多岐にわたる活動を行うために多くの幹事ならびに協力者が必要ですが、折につけて皆様にお願ひしてまいります。会の運営にも積極的にご参加いただきますようよろしくお願いいたします。特に二十代三十代の方が不足していますのでよろしくお願ひいたします。

平成24年度年頭のご挨拶

「絆」をまっしぐら

会長 岡田